

My CHRONICLE

私の仕事

転換期や、思い出に残る過去の案件を伺います。

Nネット 関東土木支部理事
弘新建設株式会社
取締役 関東営業所 所長

尾石 良一さん

RYOICHI OISHI

PROFILE

昭和54年に専修学校熊本YMCA学院を卒業後、和田建築設計事務所に入社。県議会議員秘書などを経て、昭和63年弘新建設株式会社に入社。印旛沼流域下水道工事、東京湾中央トンネル工事、川人北その1工区工事などを手がけ、平成9年に弘栄建技株式会社入社。平成11年同社取締役就任。平成19年に弘新建設株式会社入社と同時に取締役 関東営業所 所長に就任。



信用、一生懸命、 協力の言葉を大切に

DATA

東京湾アクアライン建設工事

所在地 東京湾の海底～海ほたる
概要 海底道路トンネル
泥水式シールド工法
仕上がり内径 11.9m
施工延長 約2.3km(全体 約4.5km)
工事期間 1994年11月～1996年12月

WHY I CHOSE THIS

東京湾アクアラインの建設工事では、東京湾に発進基地があり、陸で朝礼後、船中で番割や打ち合わせをするなど特殊な工事で、当時の日本では最大のプロジェクト工事でした。海ほたるは人工島で、当時は神奈川県川崎市側では鹿島JVと飛鳥JVが、千葉県木更津市側で西松JVと大成JVがそれぞれ作業を進めていました。現在の天皇陛下が皇太子殿下時代に西松JVを視察にいらっしゃったとき、坑内をバッテリーカーでご案内したことが今でも印象に残っています。

当時はバブル経済崩壊後でした。プロの

職人が数多く働いていました。プレハブ建ての宿舎では6畳一間に2人で宿泊。大風呂や大食堂、通勤大型バスでの移動など、大勢で一緒に過ごすことが多かったのも、自然と団結力も強くなり、他工区と競い合っただけで作業をしていたことも良い思い出です。

現場が海上にあるので、通勤手段は船しかありません。このため、天気が悪く波が高いときには陸に引き返したり、朝と夕方の定期便に乗り遅れたりすると、宿舎に帰ることができず、人工島に泊まるはめになったこともありました。トンネルが到達したときの達成感や、ともに働いた人たちと思い出話をしながら飲んだ祝いの酒の味は、うれしい思い出として今でも心の中に残っています。

FOR NISHIMATSU

西松建設さんからは多様な仕事をいただき、技術や管理、人脈など、多くのことを学ばせていただいたと感謝しております。

私は1週間の天気予報を確認して把握しておくことや、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚といった五感をフルに働かせることを大切にしてきました。若手の社員の皆さんは、現場でわからないことがまだ多くあると思いますが、恥ずかしがらずに職長や作業員、先輩にどんどん話しかけてほしいと思います。話を聞き、自分で考え、些細なことでも周りに相談することがこの仕事をしていく上で大切だと思います。